

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300210	事業の開始年月日	平成24年8月1日
		指定年月日	平成24年8月1日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホーム高津くぬぎ園		
所在地	(〒213-0005)		
	川崎市高津区北見方1-2-19		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年12月6日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム高津くぬぎ園は大きな幹線道路から少し離れており、梨畑や葡萄畑、苺畑など自然に囲まれた環境にあります。閑静な住宅街の中にありますので、静かで落ち着いた印象の施設となります。新型コロナウイルス感染防止に伴い、地域との関わりを一時中止しております。新型コロナウイルスが収束した際には地域に融合したホームを目指し、近隣のカフェやレストラン、公共施設など馴染みの場所や地域資源を利用して2か月に1回の外出レクリエーションを行う事を目標に行きます。利用者様には日々の生活にハリを持って営み、楽しみや喜びの日々を過ごせるように支援させて頂きます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年12月13日	評価機関 評価決定日	令和4年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇地域に密着した開かれた施設
地域との共生を大切に、地域に根ざした、開かれた事業所作りを心掛けている。コロナ禍前は、地域の行事に積極的に参加し、利用者の社会参加を支援し、防犯パトロール、子ども110番、防災訓練に参加し、自治会の総会に出席していた。交流を通じて、地域住民から認知症に対する理解を得ることができていた。
◇利用者の人格と希望を尊重するケアの実践
利用者の自己決定、自己選択を尊重している。着替えの洋服を自分で選び、外食時はメニューの中から当日その場で選択、決定できるようにしている。一人ひとりのペースを大切にし、したいことをしたい時にし、希望にそって自由に過ごせるようにしている。また、イベント時、女性利用者にお化粧や、おしゃれを楽しむ機会をもうけている。
【事業所が工夫している点】
◇日常ケアの振り返り
介護計画に沿ってサービスを提供しているかどうか「介護日誌・介護記録」に毎日記載している。「介護日誌・介護記録」には利用者一人ひとりの介護記録を記載し、項目ごとのサービスが出来ているか、出来ていないかとコメントを記載し、介護計画の随時の見直しにつなげている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム高津くぬぎ園
ユニット名	かりんユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ利用者の人格を尊重しその人らしさを失うことなく、尊厳を大事にするよう職員に伝え出入口や事務所、休憩室などにも掲示し理念を共有している。	・理念「人格の尊重」「自立支援」を事務所や休憩室に掲示している。会議の際には理念を共有し「利用者にとって今一番大切なことは何か」を話し合い、今を大切に地域の人々と共に生き、楽しくいきいきとした日々が過ごせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に入会し、町内行事や地域活動に参加（防災訓練、町内会総会、防犯パトロール等）する事で地域の一員としての役割作りを行っている。また、子供110番の場所として登録している。現在は感染防止のため中止している。	・コロナ禍前は、自治会に入会し、町内行事や地域活動、防災訓練に参加し地域の一員として交流していたコロナ禍の今は近隣への散歩で地域住民と挨拶を交わし、住民としての意識付けを高めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加する機会が増え、町内会の方々と交流を持つことで事業所の役割やそこに暮らしている認知症高齢者について理解して頂けるようになってきた。現在は感染防止のため中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて参加者の方々と意見交換やサービスについての評価など通じ、これからの事業所運営に役立てている。また、家族の出席率が徐々に減っており事業所内にて実施している。現在は感染防止のため中止している。	・コロナ禍のため、現在は運営推進会議を開催していないが、活動報告、地域への情報提供、事故・ヒヤリハット等を記載した「活動状況報告書」を運営推進会議メンバーの家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告、近況報告等運営推進会議にて報告している。生活保護者の受け入れを行っている為、区役所保護課の職員と密な連絡、連携をとっている。また、認知症専門の病院なども研修に参加して意見交換を行っている。現在は感染防止のため中止している。	・区生活保護課の職員と密に連絡を取りあい、生活の様子やニーズを伝え連携を深めている。 ・川崎市からコロナ関連情報がメールで届き、介護用手袋支給の案内があった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を行い、厚生労働省のマニュアルに従って身体拘束防止の研修を行っている	・「身体拘束適正化の指針」を整備し、身体拘束対策委員会を3か月に1回開催している、委員会の取組み内容は、職員会議の際に報告・検討している。身体拘束防止の職員研修を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修にて勉強会の機会を設けている。日常の利用者に対する声かけや言葉使い等にも注意を促している。何気ない言動が虐待にあっただってしまう事がある事を職員に説明している。また、介護相談員などの外部の相談機関もある。	・管理者は高齢者虐待防止法を学び、職員が自覚がないまま利用者の行動を制限し、不快感を与えていないか早期発見に努めている。 ・虐待の原因ともなる職員の疲労やストレスの発生予防に努めている。職員は内部研修で虐待について学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は必要な方に支援しているが権利擁護に関しては管理者のみ実践者リーダー研修にて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ユニットリーダー立会の下契約を結んでいる。説明には十分時間をかけ書面の内容については、例えや説明を付け加えながら納得されるまで行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席の際、意見や要望を伺っている。特に面会の際に個別にお話をする機会を設けている。また、家族便りや事業所だよりにて日頃の様子を報告している。現在はコロナウイルス感染防止のため、電話でのご意見が多くなっている。	・家族の意見・要望は、運営推進会議や面会時に聞いていた。今は、「家族便り」「事業所だより」「テレビ電話」で日頃の様子を伝えている。 ・電話でのご意見では「面会はいつ頃できるのか」という問い合わせが多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、ユニット会議、連絡ノートを活用し話し合いの機会を設け反映させている。何でも言い合える職場の環境や人間関係を大切にしている。	・日常業務の中で職員の気づきを大切にしている。職員からユニット会議等で、業務改善やケアの対応について意見が出され、反映させている。 ・管理者は気楽に話せる環境を作り、直接の会話やメールで意見を聞いている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ役割を任せている。職員の良い面を引き出し、輝き出せる職場環境作りに努めている。年に一回人事考課を行い個々の評価を行っている。また、処遇改善加算金の満額支給も行っている。	・昇給、賞与制度があり、年に1回人事考課を行い日々の努力や実績、勤務状況を処遇に反映している。 ・職員が向上心や、やりがいをもって働けるよう、処遇改善や役割を与え、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に(2か月に一回)内部、外部研修を行うことで質の向上に努めている。	・新人職員には1対1によるOJT体制で利用者の接し方、介護方法、記録の書き方などについて指導をしている。 ・研修案内を回覧し、パート職員を含め年に1回程度研修に参加できるようにしている。費用や日当の負担制度がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の他グループホームや小規模多機能などへ出向き、業務を行うなどサービスの向上の理解を深める努力を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面談時には、先方に出向き管理者・ユニットリーダー・ご家族様・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・医師等を交え、しっかり話を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ十分に納得して頂けるよう話をしている。入居時に家族から要望書を頂き職員で共有している。また、本人・ご家族様から意向を伺いながらケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、その方のできる事、できない事を見極め次のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れないようにしている。職員は朝交わす挨拶から利用者の微妙な変化や思いを感じ取れるようになって来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の役割として本人と家族の橋渡しになるように努めている。また家族便りの中でご様子などを報告したり、個別に電話にて情報を提供している。職員と家族が共に利用者の生活を支え合う関係作りが出来ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来園しやすい事業所の雰囲気作りを行うと共に、職員に来客時の接遇についても指導している。知人や兄弟の面会時は日頃のご様子をお伝えすると共に、知りえなかった昔々の情報を聞かせて頂く事で支援に結びつけ関係維持に役立っている。現在はコロナウイルス感染防止のため、電話での対応となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前は家族の協力を得てお墓参り、買物、美容院に出かけ馴染みの関係継続の支援をしていた。 ・今は手紙や電話のやり取り、オンライン面会にて対応している。 ・「事業所だより」で家族に日頃の様子を写真で伝えている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族の様な関係作り、他者を心配したり、労わったりできる人間関係が保てるように支援している。孤立しがちな利用者様には職員が会話の橋渡しを行い交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援を行っている旨をお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務に就く前の利用者様の顔をみて挨拶し、その時の利用者様の状態の把握に努めている。スキンシップを多く取り入れ、手を握ったり肩をなでたりする事で心を開ける様に心の声を聞くきっかけ作りに役立てています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのスキンシップや関わりを多く持ち、しぐさ、表情、言葉から、思いを把握している。 ・利用者情報は、家族情報、医療情報に分け、わかりやすくしている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にヒヤリング実施し情報収集している。情報収集シートなどにご家族様にご記入頂き情報の把握と共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にお一人おひとりに挨拶しその日の顔色、声を観察し、過去の記録などを参照し、その日の状態を把握して過ごし方を考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺い、モニタリングやユニット会議にて職員が意見交換し介護計画を作成している。サービス担当者会議には、訪問医や歯科医の出席をお願いする時もある。ユニット会議には多くの職員が参加出来るよう調整を行っている。	・入居時に利用者、家族の意向を確認し暫定ケアプランを作成している。1か月から2か月後にモニタリング、ユニット会議、医療関係者の意見を出し合い、本プランを作成している。計画は、長期1年、短期3か月とし、状態に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。サービス内容の実施について、介護記録の表面に記載する事でケア内容が分かりやすくなっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。又、月に1度のユニット会議の際、個別のケア会議を行いその時に生まれるニーズに対応出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	相談員の受け入れを行い事業所、利用者、地域との協働に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、本人、ご家族様の要望を聞きながら対応している。かかりつけ医を変えられない家族については、主治医と訪問医の連絡を密に行い情報を共有できる支援を行っている。	・コロナ禍前は、かかりつけ医に家族が連れて行く利用者もいたが、現在は全員が隔週の内科医と歯科医の訪問診察を受けている。週1回看護師が訪問している。 ・緊急の場合は、職員が病院に付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、事業所と看護師が情報共有できる往診録を作成している。事業所側の要望と看護側の対応処置を細かく記載し、やり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書や介護サマリーをやり取りしている。入院中は、病院のソーシャルワーカーや医師と情報交換や退院後の相談、支援方法について連絡を取り合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族と相談し特養申請を希望される方については手続きのお手伝いを行っている。事業所として、経口摂取出来なくなると入居の継続は難しくなる旨を家族に説明し納得して頂いている。	・入居時に利用者や家族に対し、法人の方針として、食事の経口摂取ができなくなった場合や医療行為が必要になった場合は、他の施設に転居してもらうことを、説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて勉強会を行っている。応急手当については、全ての職員に実践力があるとは言えない。今後は看護師の協力を得て研修などで技術を身につけたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い消防署、地域の防災部長等をお招きし実施している。今後、地域とのより協力的な体制を整えて行きたい。	・防災訓練には、消防署職員と町内会長の参加を得ている。利用者は外に避難せず、各居室に避難している方がいいとの助言を受けている。 ・3日分の水、食料(賞味期限入りリスト記載)の他、オムツ、電池、懐中電灯等必要な物を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとり、その方に合った言葉使いや声かけを行うように努めている。同じ名字の方などはご家族様同意のもと名前で呼ばせて頂いており、節度ある関係を心掛け、配慮ある言葉掛けを職員間で共有している。	・利用者の人格を尊重するため、各人に合わせた声かけや接し方は、会議や申し送りで共有している。 ・トイレや入浴時のドアを閉める、トイレ誘導や失禁時は他の人にわからないようにする、入浴の同性介助等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすい環境作りや雰囲気作りに努めている。入浴時の着替えなどご自分で準備できる方にはお願ひし、自己選択、自己決定が出来る支援を行っている。また、外食時のメニューも当日にその場で決めて頂く等、選択や決定の機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間はお好きなことをして過ごして頂く。今を大切に「したい時」「したい事」を声かけしながら本人の思いを傾聴・支援し、利用者のペースで生活できるよう手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えについては本人の希望を聞きながら職員と一緒にそろえるお手伝いをしている。また、イベント時に女性の利用者様に化粧を行いおしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会やおやつ作りレクリエーションなどの時に利用者様の嗜好に合わせて召し上がりたい物を提供している。また、毎食後、食器拭きや布きん畳などを行っている。その他にも歯科医による嚥下テストを行い、その方にあった食事形態で提供している。	・歯科医による嚥下に関するフードテストの結果を踏まえ、一人ひとりの食事形態に対応している。毎月の食事レクリエーションでは、利用者が好きなものを注文している。 ・テーブル拭きや食器拭きを手伝う利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を測定している。医師と話し合い病状や状態に応じてその方に合った食事摂取、食事制限や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて声かけ、介助を行っている。義歯は、夕食後洗浄剤にて清潔に使用できるよう支援している。一週間に一回は歯科医師、歯科衛生士により口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを知り定期的に声かけを行っている。昼間は出来る限りトイレでの排泄を促し、自立支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間だけのポータブルトイレ使用者は1名、オムツ使用者は2名で、昼間は見守りだけで全員が自立している。 ・入居時に排泄介助が必要だった利用者が、自立した例がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、水分強化の声かけを行っている。又慢性の便秘がちな方については医師と相談し薬の処方をお願いしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調を優先的に考えながらローテーションで実施している。又、急な失禁時は、入浴の時間帯でなくても入浴の機会を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回午前中の中の入浴が基本であるが、曜日や時間帯等利用者の希望や状況次第で臨機応変に対応している。入浴を拒否する利用者には、職員や時間を変えて誘っている。 ・職員との会話や入浴剤で、入浴を楽しめるように工夫している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った休息の時間を設けている。午後時間に30分～1時間程設けることでその後の活動性が高まり活気よく過ごすことができ、夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わり周知できるように努めている。与薬マニュアルにより誤薬や服用ミス等の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のお手伝い（モップ掛けや洗濯たたみなど）をして頂く事によって生活に張りを持たせている。また、ケアプランの中にも役割をサービス内容に入れることで、全職員が同じ支援ができるような工夫も行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクの計画を立てているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止している。室内のレクリエーションも誕生日会と季節の行事のみとなっている。	・コロナ禍前は動物園や外食に出かけていたが、現在は近隣の公園、二ヶ領用水浴い、スーパーマーケットに散歩に行く程度である。	・以前のように外出するのは難しい状況ですが、日常的な近隣への散歩の機会を増やすことが望まれます。状況が好転すれば、利用者の希望する場所への外出支援が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしていないが、週1回の移動パン屋での買い物や外出先での買い物支援、不定期ではあるが、近隣のスーパーに昼食やおやつを買いに行く買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話の取り次ぎを行ったり、はがきの準備や投函なども支援の一つと考え実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月リビングルームの飾りを変え季節感も感じて頂くように工夫している。温湿度計に注意し、心地良い快適な空間作り心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日当たりのよいリビングは、ソファを置き、利用者と一緒に季節の飾りを飾っている。温湿度には気を付け、換気も定期的に行っている。 ・次亜塩素水を清掃で使うほか、加湿器に入れ、消臭効果を得ている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者、同じ趣味のある方がご自分の思い思いのまま、自由な時間を過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄ご使用されていた生活用品をそのまま持参して頂く様をお願いをしています。ご自身の馴染みの家具やベッドは自宅の香りや温もりを感じさせ精神安定にもつながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・カーテン、クローゼット、照明の他は、ベッド、タンス、テレビ等使い慣れた家具を持ち込んでいる。 ・居室担当の職員が利用者と一緒に清掃やリネン交換、衣類の整理等を行い、居心地よく過ごせるようにしている。換気も頻繁に行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室等にプレートを付け混乱の無い様に生活している。居室についてはその方に合ったプレートの位置を考え工夫している。		

事業所名	グループホーム高津くぬぎ園
ユニット名	あんずユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ利用者の人格を尊重しその人らしさを失うことなく、尊厳を大事にするよう職員に伝え出入口や事務所、休憩室などにも掲示し理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に入会し、町内行事や地域活動に参加（防災訓練、町内会総会、防犯パトロール等）する事で地域の一員としての役割作りを行っている。また、子供110番の場所として登録している。現在は感染防止のため中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加する機会が増え、町内会の方々との交流を持つことで事業所の役割やそこに暮らしている認知症高齢者について理解して頂けるようになってきた。現在は感染防止のため中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて参加者の方々と意見交換やサービスについての評価など通じ、これからの事業所運営に役立てている。また、家族の出席率が徐々に減っており事業所内にて実施している。現在は感染防止のため中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告、近況報告等運営推進会議にて報告している。生活保護者の受け入れを行っている為、区役所保護課の職員と密な連絡、連携をとっている。また、認知症専門の病院などとも研修に参加して意見交換を行っている。現在は感染防止のため中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を行い、厚生労働省のマニュアルに従って身体拘束防止の研修を行っている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修にて勉強会の機会を設けている。日常の利用者に対する声かけや言葉使い等にも注意を促している。何気ない言動が虐待にあっただってしまう事がある事を職員に説明している。また、介護相談員などの外部の相談機関もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は必要な方に支援しているが権利擁護に関しては管理者のみ実践者リーダー研修にて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ユニットリーダー立会の下契約を結んでいる。説明には十分時間をかけ書面の内容については、例えや説明を付け加えながら納得されるまで行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席の際、意見や要望を伺っている。特に面会の際に個別にお話をする機会を設けている。また、家族便りや事業所だよりにて日頃の様子を報告している。現在はコロナウイルス感染防止のため、電話でのご意見が多くなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、ユニット会議、連絡ノートを活用し話し合いの機会を設け反映させている。何でも言い合える職場の環境や人間関係を大切にしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ役割を任せている。職員の良い面を引き出し、輝き出せる職場環境作りに努めている。年に一回人事考課を行い個々の評価を行っている。また、処遇改善加算金の満額支給も行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に(2か月に一回)内部、外部研修を行うことで質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の他グループホームや小規模多機能などの出向き業務を行うなどサービスの向上の理解を深める努力を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面談時には、先方に出向き管理者・ユニットリーダー・ご家族様・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・医師等を交え、しっかり話を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ十分に納得して頂けるよう話をしている。入居時に家族から要望書を頂き職員で共有している。また、本人・ご家族様から意向を伺いながらケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、その方のできる事、できない事を見極め次のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れないようにしている。職員は朝交わす挨拶から利用者の微妙な変化や思いを感じ取れるようになって来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の役割として本人と家族の橋渡しになるように努めている。また家族便りの中でご様子などを報告したり、個別に電話にて情報を提供している。職員と家族が共に利用者の生活を支え合う関係作りが出来ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来園しやすい事業所の雰囲気作りを行うと共に、職員に来客時の接遇についても指導している。知人や兄弟の面会時は日頃のご様子をお伝えすると共に、知りえなかった昔々の情報を聞かせて頂く事で支援に結びつけ関係維持に役立っている。現在はコロナウイルス感染防止のため、電話での対応となっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族の様な関係作り、他者を心配したり、労わったりできる人間関係が保てるように支援している。孤立しがちな利用者様には職員が会話の橋渡しを行い交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援を行っている旨をお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務に就く前の利用者様の顔をみて挨拶し、その時の利用者様の状態の把握に努めている。スキンシップを多く取り入れ、手を握ったり肩をなでたりする事で心を開ける様に心の声を聞くきっかけ作りに役立っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にヒヤリング実施し情報収集している。情報収集シートなどにご家族様にご記入頂き情報の把握と共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にお一人おひとりに挨拶しその日の顔色、声を観察し、過去の記録などを参照し、その日の状態を把握して過ごし方を考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺い、モニタリングやユニット会議にて職員が意見交換し介護計画を作成している。サービス担当者会議には、訪問医や歯科医の出席をお願いする時もある。ユニット会議には多くの職員が参加出来るよう調整を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。サービス内容の実施について、介護記録の表面に記載する事でケア内容が分かりやすくなっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。又、月に1度のユニット会議の際、個別のケア会議を行いその時に生まれるニーズに対応出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	相談員の受け入れを行い事業所、利用者、地域との協働に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、本人、ご家族様の要望を聞きながら対応している。かかりつけ医を変えられない家族については、主治医と訪問医の連絡を密に行い情報を共有できる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、事業所と看護師が情報共有できる往診録を作成している。事業所側の要望と看護側の対応処置を細かく記載し、やり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書や介護サマリーをやり取りしている。入院中は、病院のソーシャルワーカーや医師と情報交換や退院後の相談、支援方法について連絡を取り合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族と相談し特養申請を希望される方については手続きのお手伝いを行っている。事業所として、経口摂取出来なくなると入居の継続は難しくなる旨を家族に説明し納得して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて勉強会を行っている。応急手当については、全ての職員に実践力があるとは言えない。今後は看護師の協力を得て研修などで技術を身につけたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い消防署、地域の防災部長等をお招きし実施している。今後、地域とのより協力的な体制を整えて行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとり、その方に合った言葉使いや声かけを行うように努めている。同じ名字の方などはご家族様同意のもと名前で呼ばせて頂いており、節度ある関係を心掛け、配慮ある言葉掛けを職員間で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすい環境作りや雰囲気作りに努めている。入浴時の着替えなどご自分で準備できる方にはお願ひし、自己選択、自己決定が出来る支援を行っている。また、外食時のメニューも当日にその場で決めて頂く等、選択や決定の機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間はお好きなことをして過ごして頂く。今を大切に「したい時」「したい事」を声かけしながら本人の思いを傾聴・支援し、利用者のペースで生活できるよう手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えについては本人の希望を聞きながら職員と一緒にそろえるお手伝いをしている。また、イベント時に女性の利用者様に化粧を行いおしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会やおやつ作りレクリエーションなどの時に利用者様の嗜好に合わせ召し上がりたい物を提供している。また、毎食後、食器拭きや布きん畳などを行っている。その他にも歯科医による嚥下テストを行い、その方にあった食事形態で提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を測定している。医師と話し合い病状や状態に応じてその方に合った食事摂取、食事制限や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて声かけ、介助を行っている。義歯は、夕食後洗浄剤にて清潔に使用できるよう支援している。一週間に一回は歯科医師、歯科衛生士により口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを知り定期的に声かけを行っている。昼間は出来る限りトイレでの排泄を促し、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、水分強化の声かけを行っている。又慢性の便秘がちな方については医師と相談し薬の処方をお願いしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調を優先的に考えながらローテーションで実施している。又、急な失禁時は、入浴の時間帯でなくても入浴の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った休息の時間を設けている。午後時間に30分～1時間程設けることでその後の活動性が高まり活気よく過ごすことができ、夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わり周知できるように努めている。与薬マニュアルにより誤薬や服用ミス等の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のお手伝い（モップ掛けや洗濯たたみなど）をして頂く事によって生活に張りを持たせている。また、ケアプランの中にも役割をサービス内容に入れることで、全職員が同じ支援ができるような工夫も行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクの計画を立てているが新型コロナウイルス感染防止の観点から中止している。室内のレクリエーションも誕生日会と季節の行事のみとなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしていないが、週1回の移動パン屋での買い物や外出先での買い物支援、不定期ではあるが、近隣のスーパーに昼食やおやつを買いに行く買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話の取り次ぎを行ったり、はがきの準備や投函なども支援の一つと考え実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月リビングルームの飾りを変え季節感も感じて頂くように工夫している。温湿度計に注意し、心地良い快適な空間作り心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者、同じ趣味のある方がご自分の思い思いのまま、自由な時間を過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄ご使用されていた生活用品をそのまま持参して頂く様にお願いをしています。ご自身の馴染みの家具やベッドは自宅の香りや温もりを感じさせ精神安定にもつながっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室等にプレートを付け混乱の無い様に生活している。居室についてはその方に合ったプレートの位置を考え工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
高津くぬぎ園

作成日 令和 4年 1月 20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	21	以前のように外出するのは難しい状況ですが、日常的な近隣への散歩の機会を増やすことが望まれます。状況が好転すれば、利用者の希望する場所への外出支援が期待されます。	新型コロナウイルス感染予防を行いながら、散歩の機会を増やしていきます。また、感染状況が落ち着いてきた時には、レストランや喫茶店など社会との関わりを持っていきます。	手洗い、うがい、マスク着用、次亜塩素水による消毒などの基本的な感染予防を徹底し、安全に配慮した散歩や外出を行っていきたいと思います。飲食店などにいく際は個室など他のお客様との接点が無い様に考慮します	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。